

★「いがしらミュージアム」開催

「白子川源流まつり」の代わりに11/3～21の18日間大泉井頭公園で、「白子川野鳥クラブ」の野鳥写真をメインに「いがしらミュージアム」を開催し、地域の多くの方に楽しんでいただきました。展示を見て涙した人もおられたそうです。

大切な写真は毎夕倉庫へ運んだのですが、「やりたい!」「たのしい!」「あしたも!」と、公園にいた小学生が毎日手伝ってくれて本当に助かりました。



★白子川学習発表会

11/19(金)大南小体育館での学習発表会で、白子川学習をした4年生から「わたしたちのくらしと水と白子川」として、水の大切さと白子川体験学習が、寸劇と映像の見事なミックスで発表されました。来年はぜひとも源流まつりのステージで!!



9月～12月
活動記録

- 9/11(土) web“源流の森”研究会
- 19(日) WE LOVE 白子川の会
- 25(土) web運営会議
- 26(日) 定例活動(自主参加)“川を楽しむコーナー”併設

- ※10/1新型コロナ緊急事態宣言解除
- 10/3(日) WE LOVE 白子川の会(臨時)
- 9(土) 運営会議(臨時)
- 19(火) 大泉二小の町探検20名受け入れ
大泉南小の川清掃&水草刈り体験(1回目)
- 20(水) 大泉南小の川清掃&水草刈り体験(2回目)
- 24(日) 定例活動“川を楽しむコーナー”併設

- 11/3(水)～21(日)「いがしらミュージアム」開催★
- 13(土) ウキヤガラ刈り

- 19(金) 大泉南小学内発表会(4年生白子川学習)★

- 21(日) WE LOVE 白子川の会
- 22(月) 富士見中学内発表会(2年生「2030年の練馬」)
- 27(土) web運営会議
- 28(日) 定例活動(ザリガニ駆除他)

- 12/10(金) 泉新小2年生の町探検(東映橋テラス)
- 11(土) web“源流の森”研究会
- 19(日) WE LOVE 白子川の会
- 26(日) 定例活動

1月～4月
これからの主な活動予定

*毎月第3日曜日に WE LOVE 白子川の会を、毎月第4日曜日に定例活動(“川を楽しむコーナー”併設)を、予定しています。
(定例活動は井頭公園で13時半から。どなたでも参加できますが、新型コロナの感染状況により、自粛または縮小する場合があります。)

★白子川ミュージアムについて

白子川は都市河川で生き物はほとんどいないと思われがちですが、実はたくさん生き物が生息しています。全て、白子川で確認された生き物です。ぜひ右のQRコードまたは下記URLでお楽しみください。
<https://shirakogawagenryu-web.jimdosite.com>



編集後記

この編集後記を書いているのは2021年12月上旬、コロナ禍から抜け出せないまま2度目の年末を迎えているところです。でも、数々の制約を受けて行く活動のなかに思わぬ利点を発見できることもあります。オンラインにより、参加しにくかった会合にも参加しやすい、というような。「いがしらミュージアム」も、源流まつりができないことから苦肉の策で行った結果、好評でした。まつり当日のみの展示とはまた違った方々にも見ていただけたようです。その手応えがまた当会に活力を与えてくれます。
今号がみなさまの元に届くのは新年1月末。2022年が、さらなる出会い、さらなる発見の年になりますように! (喜)

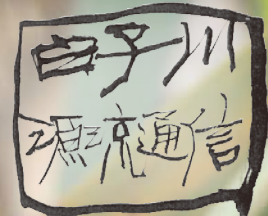
発行 白子川源流・水辺の会
<https://shirakogawa.tokyo/>
編集 小川 郁/喜多 浩子/高宮 信三郎/
永井 薫/日高 美南子/松岡 直子
題字 宮本 沙海
発行部数 1,200部
共同代表 岡崎 一成 / 菅沢 博
事務局 練馬区南大泉1-10-5
03-3923-8430 菅沢 博
※この会報は年3回発行しています



シリーズ
水辺の鳥たち

◆ウグイス

ウグイスといえばホーホケキョ♪ですが、それは春から夏にかけての、繁殖期のオスのさえずりです。秋から冬は草むらや藪の中でジジジジと鳴きながらちょこちょこ動き回って虫などを探して食べています。見た目も声ほど華やかではなく、地味な色合いです。まれに梅の木など見やすい所に出てくることもありますが、見つけるのは難しい鳥。写真は井頭公園内の草原です。春頃まではよく見かけますが、夏には涼しい山の方に行ってしまうようで、巣作りやヒナを見ることはありません。(2021/11/20撮影:村上久和)



2022年1月 第64号
「白子川源流・水辺の会」会報紙

アメリカザリガニの駆除について

～白子川の生態系を守るために～



アメリカザリガニは、1927年に食用蛙(ウシガエル)の餌として米国から持込まれ、養殖の打切りで野に放たれ、持ち前の繁殖力で全国に生息域を拡大した“身近でヤバイ奴!”(環境省)です。

彼らは、雑食性で希少な在来生物を食い尽くし、絶滅へ追いやるばかりでなく、水生植物も食い荒らすことから、他の生き物たちの生息環境を奪い、水質浄化機能を減失させるなど生態系や自然環境に悪影響を及ぼします。

白子川でも、アブラハヤやホトケドジョウやカワモズクなど白子川にとって貴重な生物が絶滅寸前まで追い込まれているのが実態です。

水辺の会では、今夏、白子川の現状について、生

態系の回復がリミットの状態にあると判断し、アメリカザリガニを駆除し、貴重な魚たちがたくさん見られる環境を作っていく方向に舵を切りました。ただし「子ども達の大切なふれあいの生きものとしてほんの少しだけ残して」。

今後の定例活動では、「入れない!捨てない!拡げない!」<外来種被害予防三原則>を合い言葉に“みんなでザリガニ捕り”を楽しみ、子どもたちには、以下アメリカザリガニの飼育方法を丁寧に伝え、外来種問題を一緒に考えていきたいと思います。

- ① 繁殖しないよう雄雌を分け適切に管理する
- ② 最後まで責任を持って飼う(寿命は5年です)
- ③ 飼いつづけることができなくなった時は、野外に放つことなく責任を持って殺処分する

(永井薫)



画・萩原和雄

リレー連載 川でつながる仲間たち<2>
和光自然環境を守る会

峯岸正雄

★白子川が流れ込む新河岸川流域では、当会と同じように川の活動に取り組んでいる様々な会があります。前号に引き続き、会の紹介やその取り組み・課題を、リレーで紹介していきます。



和光市新倉小学校5年生の越戸川総合学習の一コマ

★HP
<https://www.wakokyodo.net/sizenkankyo>
 ☆ブログ
wakokyodo.net/sns/ブログ/和光自然環境を守る会

当会は25年余り越戸川(こえどがわ)でゴミ拾いなど川の美化活動を行う傍ら各種イベントの開催等を通じて多くの市民、特に子供達が川に親しみ、ひいては自然環境を学ぶための機会を提供して来しました。美化活動として毎月第1土曜日にゴミ拾いを、毎月第2木曜日に川辺の遊歩道沿いに設けられた花壇の手入れを行っています。越戸川まつりは25年前小さな行事として始まりましたが、今日多数のボランティア団体や行政機関の協力をいただき賑やかな催しとなりました。また、夏休みジャブジャブ大会は水辺再生工事を機に13年前に開始し、今や夏休みの人気行事となっています。また近隣小学校2校の5年生の総合学習も支援しています。学習内容は魚とり体験から始まりましたが、年々進化、総合化しており、当方も張り切って対応しています。市立小中学校生や公立学校初任教諭の夏休みボランティア体験活動も受け入れています。身近な水辺の水質調査は当調査制度開始以降17年皆勤です。

当会員(現在35名)はシニアの男性が大多数ですが、小学5年生で入会した2人を含む計3人の大学3年生が川活動を継続しています。将来は我々シニアに代わって川活動をリードしてくれるとのことで頼もしい限りです。また、定年の延長等で退職後のシニアの参加は振るいませんが、むしろ働き盛りの方々の積極的な参加をいただき、喜ばしい限りです。

越戸川は都心から20km圏内に位置しますが、豊富な湧水を水源に流れは清く、アユ、カワセミ、タヌキが棲む等周囲の斜面林と一体化して豊かな生態系を育んでいます。子供達が魚を追う歓声が聞こえ、川辺を行き来する市民も増え、和光市の新たなシンボルとなっています。ここ2年コロナ禍の影響で当会の活動も大幅な制限を余儀無くされましたが、川仲間の皆様と手を携えて今後も活動を継続してまいります。よろしくお祈りします。

(みねぎしまさお・会長)

～～松本便り～～
湧水の恵み

松本に移住したのが桜の終わる4月末、これを書いている今は晩秋の景色です。松本に来て一番驚いたのが、どこにでも水が流れ、水音がすること、街のあちこちに湧水があることです。陽射しが強い夏はどれほど湧水で喉を潤したのか。

周囲を山々に囲まれた松本市は、美ヶ原高原などに降った雨や雪が地中に浸み込んで、市街地の地下で巨大な水がめを形成しており、地面の下で圧力のかかっている水たちが出口を求めて市内の至る所で湧き出しています。

中世から信濃の国第一の名水と言われた「源智の井

戸」は、私が通う眼科の前にあります(笑)。

300か所とも言われる湧水、特に市街地の湧水は「まつもと城下町湧水群」として「平成の名水百選」に認定されました。それぞれに味が違って、外出する度に今日はどこの湧水を汲んで来ようかと、考えるのも楽しみの一つです。馴染みになった居酒屋にも湧水があり、出される水はその水です。お店を出て冷たい風に震える夜も、隣りの神社の湧水は手にほっこりと温かいです。

(竹内尚代)



辰巳の庭公園 湧き水

2022年問題と源流部周辺の環境

写真の看板はよく目にされていると思います。源流部周辺で数多く点在している生産緑地には2022年問題があります。1992年に指定された、農業を続ける条件で税制の優遇が受けられる生産緑地地区の多くが30年の指定期限を迎え、一斉に農地が手放されて宅地にされるのではないかと懸念です。

その対策として、2017年に生産緑地法が改正され、引き続き

10年間優遇措置が延長される制度が創設されました。その規定に基づき、練馬区内では、1992、93年に指定を受けた地区が、2020年11月に「特定生産緑地」として再指定されましたが、4割近くの農地が減少しました。

白子川は100%湧水の川で、周辺の雨水が地下水となって湧き出ており、これは23区内では



白子川のみで、後世にも残したい貴重な場所です。農地が減ってしまうと地下水位も下がってしまい白子川の水量が減ってしまいます。農地が多く残れば、降った雨は白子川の湧水を確保し、生態系の維持に繋がります。さらに気候変動にも農作物の光合成が必須で、地産地消に取り組み地元農家を応援することで源流部周辺の環境の維持にも繋がります。(八本賢二)

定例活動報告<8月~11月>

日時 <調査開始時間>	調査項目		天気	気温 (°C)	水温 (°C)	水深 (cm)	pH	COD (mg/L)	源流部 流速 (km/h)	源流部 流量 (L/秒)	主な活動 特記事項	参加人数 (名)	収集ゴミ 90L (袋)
	調査地点	調査地点											
2021年10月24日 <13:40~>	源流部		晴	18.5	18.0	10	欠	2	0.24	91.2	・多くの親子連れで大賑わい、胴長の着脱に大わらわでした ・メダカ、ドジョウ、ザリガニを水槽に入れて展示、大きなアブラハヤが一番人気でした	22	17
	井頭橋				17.7	10	欠	2					
	井頭~火の橋中間				17.6	29	欠	2					
2021年11月28日 <13:40~>	源流部		晴	13	17.3	3	欠	2	0.29	103.5	・“みんなでザリガニ捕り”と銘打って、冬ごもり前のアメリカザリガニの捕獲を行った ・学芸大付属高の5名が参加、大活躍!でした	18	29
	井頭橋				17.3	9	欠	2					
	井頭~火の橋中間				17.3	28	欠	2					

・CODとは、水の汚れを示す指標で、数値が大きいほど汚れている。当会では、低濃度簡易測定キットで指標を判定している。2は最低値できれいな水、4~6は少し汚れている、8以上は汚れている。
 ・pHとは、酸性とアルカリ性を示す指数で、pH7が中性、7より大きいとアルカリ性、小さいと酸性。
 ・表の(ー)は、水がなくて測定不能、(欠)は測定機器の不具合等で欠測の意。

◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、8月と9月の定例活動は自主参加としたため、人手不足により水質調査は実施できなかった。
 ◆水辺の会では、定例活動において水質調査とともに放射線測定も行っており、その結果<2ヶ所で10分ずつ、単位はμSv/h>についても以下報告します。
 8月・・・0.05(源流部)/0.06(井頭橋) 9月・・・0.05(源流部)/0.06(井頭橋) 10月・・・0.07(源流部)/0.07(井頭橋) 11月・・・0.09(源流部)/0.10(井頭橋)

